

〈連載(286)〉

## 英サウサンプトン船紀行



大阪府立大学21世紀科学研究機構  
特認教授 池田 良穂

6月に英グラスゴーのストラスクライド大において船舶復原性に関する国際会議 STAB2015が開催された。会議冒頭に、IMOの関水事務総長のビデオメッセージが流され、IMOも船舶の安全性にもっとも密接に関係する復原性については常に注意を払っており、この復原性というテーマに特化したこの国際会議の成果には大きな期待をしているとのことであった。この国際会議は3年に一度開催されており、次回は大阪で開催されることが決まっている。ぜひ海事社会からの応援をお願いしたい。

さて、この国際会議の後、イギリス南部の港町サウサンプトンに久しぶりに訪れた。120年余り前に悲劇の客船「タイタニック」が出港した港としてもよく知られているし、かつてはロンドンの外港として、北米航路、インド航路、オーストラリア航路などの定期ライナーの基地として機能して、その中核のオーシャンターミナルにはロンドンからの列車の駅もあった。こうした大洋を渡る定期ライナーが姿を消した後は、キューナードラインの夏季の太平洋定期航路クルー

ズをはじめとするクルーズ客船の母港として細々と使われてきたが、主にコンテナ船をはじめとする貨物船の港へとシフトして、発展をしてきている。

筆者が、はじめてサウサンプトンを訪れたのは、もう40年以上前の大学院生になったばかりの夏で、フランスのルアーブルで、引退間近い定期客船「フランス」の入港を見たあと、夜行フェリーでサウサンプトン港に入った。乗船したのは6000総トン級のカーフェリー「ドラゴン」で、船内はすべて絨毯敷の重厚な雰囲気、レストランやバーも充実しており、日本のフェリーしか知らなかった筆者には、まさに目からうろこが落ちるほどの体験だった。

到着したサウサンプトン港では、就航間もない「クイーンエリザベス2」や、P&Oのインド航路の定期客船、南アフリカ航路の定期客船、そして大西洋航路の最新鋭コンテナ船にも出会えたことを今でも鮮明に覚えている。

現在のサウサンプトン港は、急速に膨張した欧州でのクルーズブームの影響を受け

て、客船の港として復活をしており、筆者の訪れた6月にも50隻以上のクルーズ客船が入港する予定となっていた。そうした中でも、RCI(ロイヤル・カリビアン・インターナショナル)の16万総トンの新シリーズであるクオンタム級の第2船「アンセム・オブ・ザ・シーズ」に出会えたことはラッキーだった。サウサンプトン港の出口で、同船の出港を見送った時には、クオンタム級のシンボルであるクレーン状の展望カプセルが高く上がっている状態であった。この日は、土曜日であったが、3隻の大型クルーズ客船が次々と乗客を満載して出港していった。イギリスでも定点定期クルーズが定着して、サウサンプトン港からも多くのクルーズ客船が、毎週、同じ曜日に欧州域の短期クルーズへと出港していく。

シップウォッチング、船の写真撮影を趣味とする筆者は、今回の旅行に、とても便利な道具を持参した。それが無料AISアプリ「Find Ship」をインストールしたスマホで、世界中のどこでも航行中の船を把握し、船名、速度、針路、IMO番号などを知ることができる。これまでは写真撮影のベストポイントの港の入口で何時間もひたすら船が来るのを待ったものだが、その必要がなくなり、船が来る時に合わせて、そのポイントにいることができるようになった。今回のサウサンプトンでも、港口にいて港内の船の姿が視認できなくても、各船が岸壁を離れてから港口へ来るまでの船の動きが常に把握できるのでとても便利であった。もちろん、こうした趣味の世界での活用だけでなく、簡単に入手できるようになったAISデータは、ビックデータとして、たとえば造船所が自社建造船の稼働状態をチェ

ックしたり、海運会社が自社船の運航モニター、他社船の動向を把握したりするのに簡単かつ安価に使えるようになっている。



出港する「アンセム・オブ・ザ・シーズ」の頭上に上がる自慢の展望カプセル

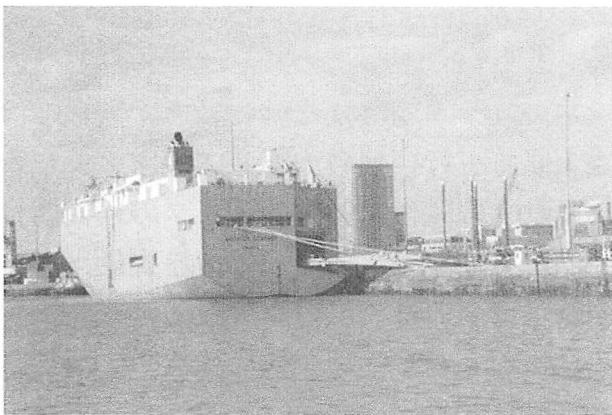


港を離れる「アンセム・オブ・ザ・シーズ」



スマホによる本原稿執筆時のサウサンプトン港内の船の動き

サウサンプトンの港は、前述したようにイギリスのクルーズハブ港として機能し始めているが、クルーズ起点港としての利用が多く、クルーズの寄港地としてはあまり使われていない。すなわち、客船岸壁が使われるのは主に週末の3日間だけで、平日はその岸壁が空いている状態となる。こうした非効率な岸壁利用の利用率向上のために、自動車船(PCC、PCTC)の誘致を積極的に行っているようだ。クルーズ客船専用のターミナルであるオーシャンターミナルの横には、巨大な駐車場ビルが建てられ、オーシャンターミナルおよびその周辺の岸壁には、毎日のように複数の自動車船が接岸して荷役をしていた。



自動車運搬船が連日のように入港して、車の積み下ろしをしている。



オーシャンターミナル(画面右隅のビル)の付近には巨大な駐車場ビルが2棟も建っている。

サウサンプトンは、沖合にある観光の島、ワイト島へのフェリー基地としても機能している。運航するのはレッド・ファンネル社で、旅客カーフェリー(ただしイギリスでは、トラックも搭載するフェリーは「カーフェリー」とはいわず「ビークル・フェリー」と呼ぶ。これは厳格な英語では、「カー」には「トラック」等が含まれないため)と高速旅客船を頻繁に就航させている。旅客カーフェリーは約1時間の航海で、1994～1996年に建造された3隻がサービスを行っており、いずれも両頭型で、推進器は珍しいフォイトシュナイダー式。一方、高速旅客船は、Red Jet 3, 4, 5の3隻で、航海速度が35～38ノット、航海時間が30分。現在、新造船Red Jet 6が、ワイト島の造船所で建造中で2016年に竣工とのこと。



旅客カーフェリー「レッド・イーグル」



ワイト島航路の高速旅客船「Red Jet 5」

月刊  
**共有船**  
 鉄道・運輸機構共有  
 貨物船・旅客船

(一社)船舶整備共有船主協会機関誌

- 鉄道・運輸機構  
内航船舶(SES)技術セミナーの開催について
  - 暫定事業の今後について
  - SES開発の歴史と検証⑭ 「桜島丸」の性能検証
  - 《海事レポート2015》  
国内旅客輸送と内航海運の現状
  - IMO 第95回海上安全委員会の開催結果
  - 国交省海事局  
船舶のトン数適正化の実施
  - 26年度 内航船舶輸送実績の概要
- ◇金利の改定      ◇建造等申請船認定状況

直江津～小木  
 あかね



9  
 2015